

大人はゆったり  
こどもはのびのび

# 海津じかん

岐阜県海津市  
移住定住ガイド

Life in  
Kaizu

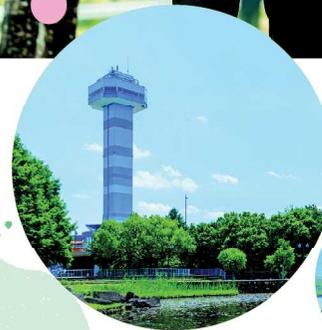


移住・定住情報



子育て情報

岐阜県海津市  
企画課内 移住定住サポートセンター  
岐阜県海津市海津町高須 515 番地  
TEL.0584-53-1113  
Mail : kikaku@city.kaizu.lg.jp



Life in  
Kaizu

# 大人にも子どもにも心地よい。 自然環境と利便性が調和した場所

岐阜県の最南端に位置する海津市。

暮らしやすい温暖な気候に恵まれています。

市内には清流が流れ、豊かな自然と農地が広がって、新鮮な野菜や果物が収穫されます。

周辺の都市へのアクセスがよく、名古屋市などへの通勤も可能。

大人は、喧騒から離れてゆったりとした暮らしを楽しむ。

そして、子どもは大自然の中でひびと遊ぶ。

そして、ここでは海津にしかない、特別な時間が流れています。



Life in  
Kaizu

## かいづ 海津市ってこんなところ

### データ

人口：31,815人(2024年4月1日現在)

面積：112.03km<sup>2</sup>

県：岐阜県

隣接都市：羽島市、養老郡養老町、安八郡輪之内町

愛知県：愛西市、稲沢市

三重県：桑名市、いなべ市



### 医療・教育・福祉

クリニックも含め34の医療施設

認定こども園9園、小学校6校

中学校3校、高校1校

高校世代までの医療費無償化や不妊治療へのサポートのほか、教育相談・教育支援・教職員への研修等を行う「総合教育センター」や、学校を休みがちな児童生徒を対象とした「フレンドリールーム」、障がい児者の日中活動の場「はばたき」などの施設も充実しています。

### 歴史・文化

揖斐川・長良川・木曾川という三大河川が出会う美しく豊かな自然を背景に、歴史や文化、さまざまな花や生き物が息づくまち。薩摩義士による宝暦治水工事を代表とする、古くからの水との関いの歴史を通じて、独特の「輪中文化」が形成されてきました。日本三大稲荷のひとつともいわれる千代保稲荷神社(愛称：おちよぼさん)は、商売繁盛・家内安全の利益がある神社として知られており、県内外からの多くの参拝者で賑わっています。

### 農業と産品

平野部では米・小麦・大豆の栽培が大規模に行われているほか、トマト、キュウリ、いちごなど、施設野菜の生産も盛ん。山麓を中心にみかんや柿も栽培されています。やわらかい食感が鯉以上、と言われる「なますの蒲焼」や、天然よもぎの草餅、千代保稲荷神社参道の串カツなどが有名です。



南濃のみかん



トマト



串カツ



天然よもぎを使った草もち

# 海津市のここがイイ！

## 住んでいる人たちの声を集めてみました

暮らしやすい気候に美味しい食べ物。遊びのスポットも多くて、プライベートタイムも充実。  
住んでみないとわからない、海津暮らしのメリットをご紹介します。

1

### 初めての子育ても 安心です

これから子どもを産みたい方も、子どもを育てている方も、安心して暮らせる海津市。成長のステージに応じて必要な支援を、切れ目なく受けることができます。子育て支援団体もたくさんあり、自然体で子育てをサポートしています。

※詳しくはP14へ



2

### 自然のなかで遊べる スポットがいっぱい！

山と川に囲まれた自然豊かな海津市には、アウトドアスポットがいっぱい。キャンプにバーベキュー、サイクリング、バスフィッシング……と、週末のお出かけが楽しみに！季節ごとに変わる美しい景色は、いつ見ても飽きません。

※詳しくはP7へ



3

### 名古屋駅まで車で 50分。レジャースポット へアクセスしやすい

海津市は、名古屋駅まで車で50分の距離。羽島市、三重県桑名市等に隣接し、大垣市、岐阜市等へもアクセスしやすく、海津市から通勤している方もたくさんいます。休日は、人気のレジャースポットであるナガシマリゾート、レゴランド、名古屋港水族館へは1時間以内、イオンモール大垣や、コストコ岐阜羽島倉庫店へは30分以内で行くことができます。

※詳しくはP6へ



4

### 過ごしやすい温暖な気候

伊勢湾などの海洋性気候の影響を受ける海津市は、冬でも比較的温暖な地域。雪は時々降りますが、平野部では積もることはほとんどなし。温暖な気候を生かした作物の栽培も盛んで、南濃町では県内唯一、みかんの栽培も行われています。



5

### 子どもの個性を引き出す 教育環境

早くからICT教育を積極的に取り入れてきた海津市では、AI型教材を導入し、一人一人のペースに合わせた学習環境を提供。スクールEライブラリー（電子書籍）で常に1,000冊以上の本を読むこともできます。



6

### 旬の“美味しい”が いつでも手に入る！

農業が盛んなため、新鮮な旬の食材を手軽に購入できることも魅力。道の駅やファーマーズマーケットには、いつでも採れたての野菜や果物、お米が並んでいます。名物の川魚料理も見逃せません。



# 家族の時間を大切に。 便利なアクセスが生むオンとオフのある暮らし

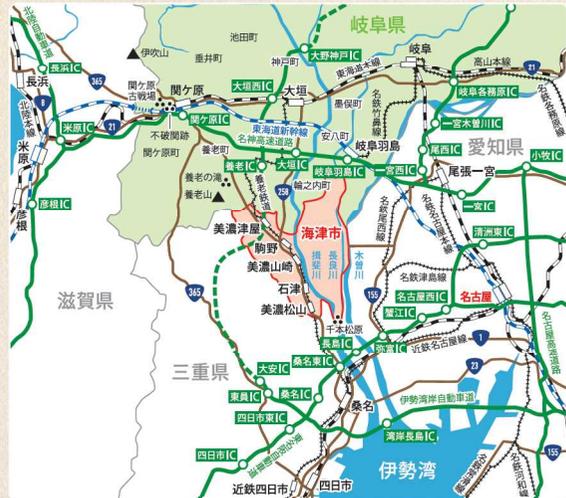
名古屋市をはじめとする周辺都市へのアクセスが良い海津市。市内においては、駒野工業団地に進出企業が決まり、雇用拡大が期待されるほか、市外においても働く場所の選択肢を広げてくれます。また、豊富にあるレジャースポットへ気軽に出かけることができ、家族との時間を大切にしながらオンとオフのメリハリのある暮らしが実現できます。

海津市から車で移動の場合	
東名阪自動車道を使うと…	一般道を使うと…
名古屋まで最短 <b>30分</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜県 岐阜市 ・三重県 四日市</li> <li>愛知県 名古屋市 ・滋賀県 米原市 まで約<b>60分</b></li> </ul>
電車&バスで名古屋駅に行くには？	
コミュニティバス海津津島線で海津市内→津島駅、津島駅→名鉄で名古屋駅まで約 <b>1時間10分</b>	養老鉄道各駅(駒野駅、美濃山崎駅、石津駅、美濃松山駅)→桑名駅、桑名駅→名古屋駅まで約 <b>1時間~1時間15分</b>
主要駅へのアクセス時間	
大垣駅まで養老鉄道で約 <b>40分~50分</b> 、車で約 <b>30分</b> 岐阜羽鳥駅までバスで約 <b>35分</b> 、車で約 <b>20分</b> 桑名駅まで養老鉄道で約 <b>20分~35分</b> 、車で約 <b>30分</b>	最寄りの高速道路ICまで… 岐阜羽鳥ICまで約 <b>20分</b> 大垣ICまで約 <b>20分</b> 桑名東ICまで約 <b>25分</b> 弥富ICまで約 <b>30分</b> 津岸長島ICまで約 <b>30分</b>

## Access

(仮称)海津スマートIC開通で、移動がより快適に！

「新名神」「名神」「東海北陸道」「中央道」「東名」「新東名」をそれぞれ横軸でつなぐ高速道路「東海環状自動車道」(2026年度全線開通予定)に、海津市の入り口となるスマートICを設置する工事が現在進行中。東海環状自動車道が全線開通すれば、周辺都市(特に三重県)への通勤はもちろん、レジャーや旅行などの移動も時間短縮に。さらに、岐阜県西濃地域と三重県北勢地域が直結することで、四日市港へのアクセスがよくなり、産業振興も期待されます。



(仮称)海津スマートIC

(2026年度全線開通予定)



4 津屋川の彼岸花



津屋川の堤防斜面3kmにわたって彼岸花が咲き誇る

6 月見の森



岐阜県生活環境保全林として整備された雄大な自然公園

7 羽根谷だんだん公園  
キャンプ場



濃尾平野を一望でき、春は桜が咲き誇るキャンプ場

1 平田公園



多目的ドームではさまざまなイベントも開催

2 平田リバーサイドプラザ



自然のまま残された森や池がある全長2.1kmの公園

3 千代保稲荷神社



「おちよばさん」の愛称で、初詣は多くの人で賑わう

## Spot

海津市には四季のうつろいを楽しめる施設や公園がたくさん。暮らしのすぐそばに自然がある海津市で、お気に入りのスポットがきっと見つかります。

5 海津市歴史民俗資料館



県内唯一の貝塚や市内多数の古墳からの出土品などを展示。2025年春、リニューアルオープン

8 アクアワールド  
水郷パークセンター



養田池に隣接した、風車のある緑あふれる施設

9 木曾三川公園センター



愛知、岐阜、三重の3県に接する、口中 広い国営公園

Life in  
Kaizu



INTERVIEW 01

家族全員で、  
暮らしを楽しんでいます

木曾三川公園センター

住宅が密集する環境から、周囲に田畑や広がる開放的な海津市に移り住んだ清水さん家族。認定こども園や公園、子育て支援団体など子育て環境が整ったこの地で、穏やかな日々を楽しんでいます。

2023年6月  
愛知県稲沢市→海津市  
清水柱民さん 優希奈さん(20代)  
優民ちゃん(5歳)

自由に走り回れる環境で長女もうれしそう

「早く遊ぼうー!」と元気に遊具のほうへ駆けていく長女の優民ちゃん。この日、清水さん家族はよく遊びにくるという「木曾三川公園センター」を訪れた。夫の柱民さんは、「この公園は、大きな遊具や木製のアスレチックなどが充実している、高さ65mのタワーの上からは木曾三川の流れが一望できるんですよ」と微笑む。

結婚後、長良川、木曾川を挟んで海津

市と隣接する愛知県稲沢市にある柱民さんの実家に約4年間住んでいた清水さん家族。周囲は住宅街だったため広い公園がなくて、優民ちゃんをのびのびと遊ばせることができなかった。「そんな娘も海津市に移り住んでからは、家の周りの田園風景の中を自由に走り回って遊んでいます。それを見るのが、移住して一番うれしいことですね」（優希奈さん）

結婚したときから、マイホームを建てるのが夢だったという清水さん夫妻。稲沢市をはじめ、優希奈さんが生まれ育った海津市、その北にある羽島市など、4年ほどかけて土地を探した。住宅が密集した人の多いところは苦手だという柱民さんの希望もあり、なるべく自然に近く、のんびりと暮らせそうなエリアを重点的に見て回った。そして巡り合ったのが、

海津市にある現在の土地だ。

移住先として選んだ決め手は、優希奈さんの実家に近いこと。周囲には田畑や山を望むのどかな風景が広がっていること。そして、柱民さん、優希奈さんのそれぞれの職場に、車で20~30分で通えることもポイントに。併せて、海津市が行っている「若年夫婦・子育て世帯U・Iターン奨励事業」という制度も移住の後押しとなった。この制度は、39歳以下の夫婦が海津市にU・Iターンする際



に、100万円を上限として奨励金を交付するというもの。

「私たちは土地から購入して家を建て、家電や家具も一からそろえなければならなかったのが、海津市の補助制度はとてもありがたかったですね」（柱民さん）  
新幹線の駅がある羽島市や、名古屋市に近い稲沢市に比べ、広い土地がリーズナブルな価格で購入できる点も、海津市を選んだ理由の一つだったという。

市役所や地域の人の優しさに感動

清水さん夫妻が海津市に暮らし始めて、実感したまちの良さは「人の優しさ」。「引越してきたとき、市役所に手続きに出かけて、どこの窓口に行っているかわからずウロウロしていたら、すぐに職員の方が『今日はどんな手続きのためにお越しですか?』と話しかけてくれたんです。いくつか用事があるときは、『これから先に行ったほうがスムーズですよ』と順番まで教えてくれたり、海津市の人は優しいなと思いました」（優希奈さん）

現在の土地を購入したときには、こんなエピソードが。

「土地には雑草が一面に生えていたので、手作業で草むしりをしていたところ、近所の方が『それじゃ、日が暮れちゃうよ』と言って草刈機を貸してくれた、使い方で教えてくれたんです。あれが無

かったら本当に1日じゃ終わらなかったかもしれません（笑）」（柱民さん）

優民ちゃんが家の周りなどで遊んでいるときも近所の方がさりげなく見守ってくれている。地域全体で子育てをサポートしてくれるところも、海津の魅力の一つだという。

子育て施設や、子育て支援団体が充実

2023年6月、優民ちゃんが保育園の年中のときに、海津市に移り住んだ清水さん家族。認定こども園に待機児童はなく、希望どおりのタイミングで入園できた。現在、通っているのは私立の認定こども園。体操教室や英語、書道、茶道、ダンスなど、受けられる習い事のメニューが充実していたことが選んだポイントだったという。「今の年長のクラスには、園児20人ほどに対して先生が6人もいて、こどもたち一人ひとりしっかりとコミュニケーションをとってくれます。家に帰ってくると『今日、先生がこんなこと教えてくれたよ!』と、いつもうれしそうに話してくれるんです」（優希奈さん）

海津市の認定こども園には、「地域子育て支援センター」が設置されており、未就園児を連れて遊ぶことができたり、情報交換や仲間づくりをしたり、子育ての不安などを相談したりできる。

「支援センターの人が、今度こんなイベントを開催しますと声をかけてくださる

ので参加しやすいです」（優希奈さん）

また、海津市には子育て世代向けのイベント情報を発信している子育て支援団体や、絵本の読み聞かせをおこなっているNPOなどの団体があり、清水さん夫妻は今後、参加していきたいと考えている。

移住後、広がっていく暮らしの楽しみ

田園風景や山など、身近に自然がある海津市だが、一方ではスーパーやドラッグストアなどもそろい、日々の買い物に不自由は感じないという。清水さん家族は、岐阜市や愛知県一宮市、稲沢市にあるショッピングセンターやモールにもよく足を運んでいる。

「木曾三川という大きな河川が流れる海津市は、堤防の上に道路が整備されているのが特徴。これらの道路は信号が少な



大型遊具やアスレチックがそろった「木曾三川公園センター」は、優民ちゃんのお気に入り

く、岐阜市や一宮市へも、スムーズにアクセスできます」（柱民さん）

海津市に移り住んで1年。清水さん家族の家のリビングに設けた横長の窓からは、田畑や養老山地などが見え、自然に囲まれた落ち着いた暮らしにあこがれていた柱民さんは大満足の様子だ。

「周囲に家が少なく、家の壁も厚くて音漏れがしにくいので、リビングでカラオケを歌ったり、ピアノを弾いたりして楽しんでいます。いずれはギターも始められたらと思っています」（柱民さん）

海津市内には、温泉や道の駅など、家族3人で行きたいスポットがまだまだたくさん。清水さん家族は、これからもこの海津での暮らしを楽しんでいきたいと考えている。



周囲に住宅が少なく開けた環境に立つ新居で楽しむ、のびのびとした暮らし。優希奈さんの実家も近く、両親は優民ちゃんをとても可愛がってくれている

清水さんのお気に入りスポット

ベーカリーカフェ 151@

岐阜県海津市海津町馬目403-3  
P7 MAP

約100種類のパンが並びベーカリーと、地産地消にこだわった野菜を使ったパスタや煮込み料理、自家製スイーツが楽しめるカフェが一体となったお店。清水さん家族は、焼き立てパンがおかわりできる「交替わりのおすすめランチ」が気に入った。「フランスの片田舎をイメージしたという建物も素敵です」と優希奈さん





五感が喜ぶ豊かな自然が  
お気に入りです

羽根谷だんだん公園

INTERVIEW 02

山を眺めて暮らしながら、子どもたちをのびのびと育てたいと海津市に移り住んだ草野さん夫妻。自然や木が身近にあるこの場所で、それぞれが自分らしいライフワークに出会えました。

2012年3月  
愛知県名古屋市→海津市  
草野暢之さん 直美さん(40代)  
長男(16歳) 次男(13歳) 長女(10歳)

子どもたちをのびのびと育てたい

「朝、窓を開けると目の前に山が広がる、そんな自然豊かな場所に暮らしたい」と、12年前に名古屋市内から海津市に移り住んだ草野さん夫妻。夫の暢之さんは名古屋の材木店に20年ほど勤務。妻の直美さんも名古屋のインテリアショップで店長を務めるなど、常に「木」が身近にあった。また、二人ともキャンプやスノーボードが好きで、山へよく遊びに出かけていた。木や山のそばで暮らしたいと

いう想いから、名古屋への通勤圏内で山が身近にある海津市をはじめ、愛知県犬山市、三重県桑名市などを回ったという。移住を考えるきっかけとなったのは、2011年の東日本大震災だった。

「当時、私たちは空き家だった築70年の私の実家をセルフリノベーションして暮らしていました。長男は2歳で、次男はまだ生まれたばかり。『もし、次に近くで大きな地震が起こったら、家の下敷きになるかもしれない』という不安から、移住を考え始めたんです。」(直美さん)

当時住んでいた名古屋市内の家の周りは車通りが激しく、長男が駆け出すと慌てて追いかけてやらなければならなかった。人の多い公園でも、思う存分遊ばせられない窮屈さを感じていた。「子どもたちをのびのびと育てたい」といった想いが、移住したい気持ちを後押しした。

この辺りはいい人ばかりだよ！

いくつかの候補地を巡る中、ネットでたまたま見つけた物件を見るために海津市を訪れたときのこと。市の特産品の一つでもあるみかん畑で草取りをするおじいさんが、「あんたらどっからござった(来なされた)?」と声をかけてくれた。移住先を探していると説明すると、「この辺りはええ人ばっかやよ(いい人ばかりだよ)！」と答えてくれたという。



「『ええ人ばっか』と言い切れるのは、それだけ信頼関係が築かれているということだと思いました。」(暢之さん)

それ以後も海津市に何度も足を運び、地域の人に声をかけては地盤の強さや住み心地などについて話を聞いて回った草野さんご夫婦。山に近いエリアを散歩していたとき、また別の方に声をかけてもらい、移住の意向を話すと、「今ここ、売りに出たはずだ」と、その場ですぐに持ち主に電話をしてくれ、帰りに取れたばかりの野菜まで持たせてくれた。実はこの土地が、草野さん家族が今も暮らしている場所だ。ここに新築した家の窓からは山はもちろん、朝日や夕日、星空までも眺められる。

木と子どもたちを軸にした  
新たな活動を展開

移住して、家族をとりまき環境は大きく変わった。周囲にはみかん畑が広がり、土や水、草木などの自然が身近にある。そんな環境の中、子どもたちは思い切り遊び、すくすくと成長した。

海津市に移住して7年が過ぎた頃、直美さんは「木育」の活動に取り組み始めた。「木育」とは、「木とふれあい、木に学び、木と生きる」ことを通じて、人と木、人と森をつなげることを目指す活動。森林が豊かな岐阜県は「木育」に力を入れており、直美さんは、ぎふ木育指導員や木育インストラクターとして、県内各地の認定こども園や小学校、木育関連施設などで子どもたちを対象に、木を使って創作をするワークショップ「くるまだち木工室」を開催している。市内にとどまらず、名古屋市の商業施設などで



草野さんのお気に入りスポット

KAIJU CAFÉ

岐阜県海津市平田町野寺2357-2 クレール平田内  
P7 MAP®



暢之さんは、こどもたちが自分で遊びを作り出し、思う存分楽しむことができる「プレイパークかいつ」を年4回ほど開催している



もワークショップを実施。今後は全国に活動を展開し、岐阜県産の木材を使ってもらうことで、日本各地に県の魅力を発信していきたいと考えている。

「これまでに海津市の認定こども園などでもワークショップを開催してきましたが、見ていて思うのは、都会に暮らす子どもたちに比べて作品が“力強い”こと。それは普段から自然の中で大人の顔色を気にすることなく、自由に遊んでいるからだと思うんです。」(直美さん)

家族を変えたプレイパークとの出会い

一方、子どもたちにもっと外で遊んでほしいという想いで、3年前から暢之さんが取り組んでいるのが、「プレイパークかいつ」。プレイパークは子どもたちが自分自身で“遊びを作る”遊び場として、全国300カ所以上で開催。岐阜県内でも10カ所以上で行われている。木登りしたり、焚き火をしたり、地面に穴を掘ったり。「大人の手出し、口出しはノーサンキュー！」を合言葉に、こどもがやりたいことを実現できる場となっている。草野さん家族は、10年ほど前からプレイパークに来場者として訪れるようになり、こどもが「自分の責任で100%思う存分遊ぶことの楽しさ」を実感。海津市にも活動を広めるべく運営側に立ち、年4回ほど開催している。「名古屋に住んでいたころ、公園に窮屈

さを感じていた長男は、プレイパークに参加するようになって、水を得た魚のようにイキイキと遊ぶようになりました。そして、遊びをきっかけに『自分はどう生きていきたいか』を主体的に考えるようになったんです。今は16歳ながら県内の他のプレイパークからもスタッフとして呼んでもらえるようになって、こどもたちを見守ったり、遊びの相談相手になったりと、一生懸命に打ち込んでいます。」(暢之さん)

暢之さんは木材店を退社して木工房を設立。家具などの製作に力を入れている。海津市の自然との出会いによって、家族それぞれにライフワークが生まれた。

リアルな体験ができるのが海津市の魅力

リモートワークの普及によって、住む場所の自由度が上がりつつある現在。住む場所を選ぶとき、いったい何を基準としたら良いのだろうか。

「AIやデジタル技術がますます進化し、便利になっていく反面、それとは真逆なリアルな実体験が、両輪として重要になっていくと思うんです。木や土に触れたり、花の香りを嗅いだり、風を感じたり。こどもたちがそんなリアルな体験を積み重ねられる場所として、海津市はうってつけです。こどもはもちろん、大人も五感が喜ぶまち、それが海津だと思います。」(暢之さん・直美さん)

草野さん夫妻と二世店の店主が、地産地消や地方発信をテーマに、料理やデザートを提供。モーニングでは「草餅モーニング」、ランチでは海津の野菜たっぷりのランチセットがおすすめ。草野さん夫妻は、地産地消の「鹿肉ハンバーグ」がお気に入りだそう。地元の卵を使った固めのプリンなど、デザートも充実している





INTERVIEW 03



上・親牛に種付けをし、子牛を育てて販売するのが繁殖農家の仕事 中・現在、3頭の牛舎で飼育している 下・パートナーの松本さん(女)と、手伝いに来ていた高校生の母親

## 海津は、“やりたい”が実現できるまち

全国を巡る中で、海津市で希望に合った牛舎を見つけて就農を実現した風岡さん。80頭の子牛を育てながら、こどもたちを対象にした食育にも力を入れています。

2020年12月  
愛知県春日井市→海津市  
風岡公歌さん(40代)

### 畜産に理解がある海津市で牛舎を設立

4年前に愛知県春日井市から海津市に移り住み、和牛の繁殖農家として新規就農を果たした風岡さん。春日井市で炭焼きの仕事をしていた風岡さんは、木炭灰を酪農家に納めていたことがきっかけで、畜産に興味をもつようになった。

「高齢の夫婦が営む牛舎の掃除などを手伝っているうちに、自分でも畜産をやってみたいと思うようになったんです」

東日本大震災の際に、食糧不足で1日1食だけしか食べられないこどもたちをテレビで目にし、食の重要性を痛感したことも風岡さんの気持ちを後押しした。

1年半をかけて全国で牛舎を探した結果、比較的新しく、希望する規模の牛舎が海津市で見つかった。元々海津市では

畜産が営まれており、周囲の住民の理解があることも移住の決め手となった。

風岡さんは「なんのうファーム」を立ち上げ、パートナーの松本さんと現在は80頭ほどの牛を育てている。健康に育てるために餌は1グラム単位にまでこだわって計量しながら配合。2023年11月には、より質の高い和牛の生産を目指して、「海津和牛改良組合」を設立した。

### 食の大切さを、こどもたちに伝えたい

風岡さんは市内のこどもたちに畜産の仕事を知ってもらい活動にも力を入れたいと考えている。小中学生に子牛の名前を付けてもらい、成長の様子を動画などで伝えながら、最後はこどもたちと一緒に肉を食べるという新しい食育活動だ。「食べるために育てる。直視するのは苦しいことですが、とても重要なこと。それをこどもたちに体感してもらい、食の営みの大切さを知ってもらいたいです」

現在は近隣の農業高校からインターンを受け入れているほか、県内の農業高校

生や友人も手伝いに来てくれる。畜産を「稼げる仕事」として、次世代につながることも、風岡さんの大きな目標だ。「海津市に住んでみて、他の地域に比べて足りないことや、無いことがたくさんあるように感じています。それは、これから実現できることが多いということ。畜産に限らず、あらゆる分野でチャレンジしやすいまちだと思います」

### 風岡さんのお気に入りスポット



喫茶心撃

モーニングでは黒糖あんホイップトーストや玉子かけご飯、おはぎなどが、ランチではハンバーグやもち豚しょうが焼きなどが堪能できる「心撃」。「改装されたばかりの店内は、落ち着いてお話ができる雰囲気でおすすめです」と風岡さん

岐阜県海津市海津町馬目422-2 P7 MAP④

## 東京と海津の二地域居住を始めて、農業という新たな目標ができました

東京から3時間弱というアクセスの良さを生かして行き来する中、佐藤さんは、農業を生業にするという新たな可能性を見つけました。



中・養蜂の移動にはロードバイクを常用 下・植えて3年目となるイチジクの木に、初めてできた実を見せてくれた佐藤さん

### INTERVIEW 04

2023年8月 東京都→海津市

佐藤大輔さん(40代)

### 新たにイチジクの栽培にチャレンジ

東京で22年間に渡り、フリーランスで映像制作を手がけてきた佐藤さん。国内外に出向いて撮影し、編集した映像は、どこからでもデータで納品できる。もはや東京に縛られている必要はないと考えた佐藤さんは、地元で映像会社を設立することと、80歳近い両親のサポートを目的に、2023年8月から東京と海津の実家での二地域居住をスタートした。

海津市で暮らし始めてみると、周囲には高齢化によって農業をやめざるを得ず、田畑やハウスを受け継いでほしいと

いう人が多いことに気づいた。逆に言えば、農業を始めやすい状況だ。佐藤さんは、市内で地鶏を育てる生産農家を見てまわって話を聞き、「いずれは鶏小屋を建て、自ら地鶏を育てたい」と考えている。実家の畑では、農業を使わずにハーブや薬物野菜の栽培をスタート。就農支援施設にも相談に赴き、未来の準備をすすめるなかで、新たに着目しているのが、イチジクの苗の栽培だという。

「イチジクは挿し木で増やすことができ、砂地である海津の土地との相性もいい。しかも、苗は比較的高値で販売できます。今年から無農薬で始めたイチジクの苗の栽培を、3年後を目処にビジネス化できればと考えています」

新幹線の「岐阜羽島駅」まで車で約20分の距離にある海津市は、東京や大阪へのアクセスの良さも魅力。佐藤さん

### 佐藤さんのお気に入りスポット



海津温泉 宙舟の湯

地下1400mから湧き出す鉄分と塩分を多く含んだ黄金色の天然温泉で、19種類のお風呂が用意されている。露天風呂の岩風呂をはじめ、ひのき風呂や御影石風呂は源泉掛け流し。佐藤さんは、広々としたサウナがお気に入り

岐阜県海津市海津町福江560-1 P7 MAP④



の東京の自宅から海津の実家までは、ドアtoドアで3時間弱。二拠点での生活を始めたことで視野が開け、農業という新たな事業の可能性が広がり始めている。

### 身構えずに暮らせる、温かなまち

なにより、両親が喜んでくれていること、地元の人たちが温かく接してくれることが、二地域居住を始めて良かったことだという佐藤さん。畑で作業をしていると、近所の人が道具を貸してくれたり、植える時期を教えてくれたりと、何かと気にかけてくれる。

「近くには移住者が暮らす住居が3軒ありますが、地元の人は誰もと分け隔てなく接しています。海津市はUターンだけではなく1ターンの人でも、身構えることなく暮らせるまちだと思いますよ」

切れ目ない支援がずっと続く

# 子育てしやすい！ 海津市

妊娠時から18歳になるまで、海津市では子育てをするファミリーを一貫してサポート！  
子育て支援団体も多く、子どもがのびのびと育つ環境と制度が充実しています。

↑

乳幼児等  
医療費助成  
0歳～18歳まで

0歳から18歳到達後初めて迎える3月31日まで、お子さまの医療給費にかからず自己負担額の一部を助成します

妊婦・出産

不妊治療・不育症検査・治療補助  
1回につき **10万円**まで

かいづっこハピハピ給付金  
新生児1人あたり **20万円**  
※令和6年4月1日以降に子どもが生まれた世帯が対象

市内の認定こども園で使える一時預かり無料券  
子育てエンJOYクーポン交付  
満3歳までの子ども1人につき 最大 **15回分**  
※保育所等に通っていない、生後1か月半から3歳に達する日の属する月末まで

保育料の軽減  
2人目の子ども 基準額の **1/2**  
3人目以降の子ども **無料**  
※同一世帯に限る

満3歳児幼稚園(認定こども園)受入  
**保育料 無料**  
※満3歳の誕生日を迎えた翌月から

高等学校就学準備等支援  
中学3年生の子ども1人あたり **3万円**

高校生等通学費の助成  
1年ごと 最大 **1万円**  
※市内在住で公共交通機関(通学定期券)を利用して高校等に通学している生徒

↓



- 産教サポート119  
妊娠・出産に関する情報を事前に登録し、緊急時、より迅速に医療機関へ搬送できるようにします
- 産後ケア  
出産後に育児等の支援が必要な母子を対象に、助産師等が心身のケアや育児のサポートを行います
- 母子保健教室  
子育ての不安の軽減や保護者同士が繋がる場として、妊娠期から育児期まで段階に応じた5回の教室を実施しています
- 母子保健相談・訪問等  
子どもの発育・発達、育児不安において支援を必要とされる方に対して個別面談を実施。育児相談や家庭訪問などを行います
- 地域子育て支援センター  
未就園児とその保護者同士が気軽に利用できる交流の場です。認定こども園に設置されており、保育士が子育ての相談にも応じます
- 未就園児の一時預かり  
冠婚葬祭や育児疲れなどにより家庭内の保育が一時的に困難な場合、認定こども園等で一時的に預かります(主に昼間)
- 在園時の一時預かり  
通常の教育時間の前後や長期休業期間中など、保護者の要請に応じて一時的に預かります(認定こども園幼稚園の在園児が対象)
- 病児・病後児保育  
(こどもの認定こども園にて)  
病気またはけがの回復期において、保護者の疾病や勤務などにより保育が困難な小学6年生までの児童を一時的に保育します
- 留守家庭児童教室  
放課後や長期休業日に勤務等で保護者不在の児童に対し、市内の全小学校区で実施します  
※高学年は定員に空きのある教室に限る

移住後の子育ての不安を解消  
子育て支援団体がたくさん！

かいづママstyle

子育てをするママたちが海津で心地よく暮らせるように、おでかけMAPやワークショップ、さまざまな交流イベントなどを主催し、仲間、地域と出会う機会や学び場を提供しています。

NPO法人 絵本で遊ぼう

絵本好きな有志が集まり、子どもたちが主体となるイベントを企画。読み聞かせ活動や親子で楽しめる多彩な絵本イベントを随時開催しています。

## 2024年11月 海津市子ども未来館 ZUTTO ずっと オープン！



「安心して過ごせる親子の居場所」をコンセプトにした、子育ての新拠点。ポーネンドの遊具や、蔵書数2万冊を誇る「子ども図書館」、交流スペースやカフェスペースなどを備え、イベントや体験学習も行う予定です。子どもたちには「遊び」と「学び」、保護者には「交流」と「相談」ができる場を提供します。

# 移住後の暮らし、仕事もサポートします

## 暮らし 若年夫婦・子育て世帯支援事業

住宅等取得等奨励事業	家賃補助事業	U・Iターン奨励事業
新築 <b>50万円</b> 中古 <b>20万円</b> リフォーム <b>10万円</b>	子育て世帯 <b>18万円</b> 若年夫婦 <b>12万円</b>	世帯 <b>30万円</b> 子ども1人あたり <b>10万円</b> (2人まで) 市内で就職した場合 <b>20万円</b> 車を購入した場合 <b>30万円</b> (上限)
さらに/ 結婚新生活支援事業	例えば…	
夫婦共に29歳以下の世帯 最大 <b>60万円</b> 夫婦共に39歳以下の世帯 最大 <b>30万円</b>	海津市に移住して家を新築した場合	
	U・Iターン奨励事業 …… <b>30万円</b> *U・Iターン奨励事業(子ども加算10万円×2人) …… <b>20万円</b> U・Iターン奨励事業(市内就職加算) …… <b>20万円</b> U・Iターン奨励事業(車購入加算) …… <b>30万円</b> 住宅取得等奨励事業 …… <b>50万円</b>	
	*子育て世帯のみ対象	最大 <b>150万円</b> を交付
	*若年夫婦とは申請時点でいずれも39歳以下の夫婦。子育て世帯とは、未就学児または大学生以下の子(22歳以下に限る)およびその父もしくは母で構成されている世帯	

## 仕事

[ 就職したい! ]

わくWORKかいづ

市内に就職を希望する方を対象として、職業紹介や仕事探し、職業相談、適性診断、応募書類の書き方のアドバイスなどを行っています。利用には登録が必要です。

移住支援金

東京圏からの移住にはさらに支援金も/  
東京圏から移住し対象の企業に就職した方に  
単身者 **60万円** 世帯 最大 **100万円**

海津市就活支援事業

市内企業等への就職活動に係る費用を支援します。  
インターンシップに参加した場合 宿泊費 1泊あたり **5,000円**  
就職試験を受験した場合 交通費 最大 **11,000円**  
宿泊費 1泊あたり **5,000円**

海津市奨学金返還支援事業

正規雇用で働きながら奨学金を返還している市内在住の29歳以下の方に対し、支援金を交付します。(最長3年間)  
市内勤務者 最大 **12万円** 市外勤務者 最大 **6万円**

[ 起業したい! ]

スタートアップ起業支援事業補助金

市内で新たに起業する場合 最大 **60万円**  
新規起業 **30万円** (上限)  
市外から転入 **10万円** (加算)  
29歳以下の方 **10万円** (加算)  
市内の空き家、空き店舗を活用した方 **10万円** (加算)

[ 農業を始めたい! ]

新規就農者支援事業費補助金

50歳未満の認定新規就農者 最大 **200万円**

研修制度

海津市にある岐阜県農業支援センターでは、修了後に岐阜県内に就農する予定の方に対し「冬春トマト」の新規就農者を育成するための就農研修を行っています。受講料は無料です。(テキスト代・交通費、生活費は自己負担となります)

\*支援事業の内容は、令和6年度時点のものです。

移住に関するお問い合わせは  
**岐阜県海津市**  
企画課内  
移住定住サポートセンター

〒503-0695  
岐阜県海津市海津町高須515番地  
TEL: 0584-53-1113



お問い合わせフォーム

